

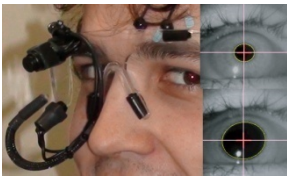
感情を測る

背景・課題：楽しい、不快、嬉しい、不安だ、悲しい、心地よい・・・、人の感情は様々です。感情は意思決定や物事の認識といった日常行動に強く影響を及ぼすため、その科学的解明が求められています。この研究では様々な測定手法によって人の感情を「客観的に」評価することを目指しています。

アプローチ：血管や瞳孔の拡大収縮、呼吸や心拍リズムの変動など、自律神経が織り成す身体の様々な変化を測定しました。また、爪から人の遺伝子情報を読み取り、遺伝子の違いによって感情の評価の仕方がどう異なるかを調べました。

到達点：音や画像、音楽といった感覚を刺激するものに対する人の感情が、自律神経の応答から推定されることがわかりました。また、人が生来持っている遺伝子の型が人の感情をある程度制御している可能性を見出しました。

画像や音をもたらすインパクトを瞳孔から推定



“視聴覚刺激と瞳孔反応の関係”



見る 聴く
脳が処理し、感情を表現

指先の血管収縮から音に対する感情を推定



“音による不快感を測る”

感情の処理の仕方から遺伝子と心臓の関係が明らかに



“遺伝子から探る感情の動き”

呼吸リズムから音楽との一体感がわかる？



“呼吸と音楽の関係を探る”



関連文献

Ooishi & Kashino “Analysis of autonomic response to sound-induced emotion”, P3-e03, Neuro science, 2009

Koizumi, Kitagawa et al., “Serotonin transporter gene and inhibition of conflicting emotional information”, Neuroreport (in press)

連絡先 : 大石悠貴 (Yuuki Ooishi), 北川智利 (Norimichi Kitagawa)

佐藤尚 (Takashi Sato), 竹内龍人 (Tatsuto Takeuchi)

柏野牧夫 (Makio Kashino)

人間情報研究部 感覚情動研究グループ & 守谷特別研究室